

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

第19回図書館総合展出展者募集説明会
利用者とともに作る図書館
—学生協働に見る図書館の未来像—

・学生協働の実際
お茶大の事例(LiSA・LALA)

・学生協働をめぐる動向(1)
学生協働ワークショップin東京

3月7日(火)
日直
しほり

2017年3月7日(火)
お茶の水女子大学 図書・情報課長
森 いつみ
mori.izumi@ocha.ac.jp

学習サポーター-LALA
キャラクター-ららさん

図書館サポーター-LiSA
キャラクター-しほりちゃん

1

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学生協働とは

□ 学生協働の「定義」と期待される「効果」を緩やかに共有する多種多様な活動の総称※)

- 制度面での多様性
 - ・ 組織の位置づけ(ボランティア・サークル・アルバイト・インターンシップなど)
 - ・ 有償か無償か、公認か非公認か、など
- 内容面での多様性
 - LiSA** ● 図書館を活性化する活動: 図書館サポート(図書館業務、選書、展示など)
 - LALA** ● 図書館を活用した/図書館の場における学びを支援する活動: 学習サポート/ピアサポート(学習支援、ライティング支援、ICT支援など)

※)学生協働ワークショップin東京 2014 <<http://www.lib.ocha.ac.jp/lib-student2014.html>>

2

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

LiSA

LiSA (Library Student Assistant)

□ 目的

- 学生と職員が協働して図書館を活性化
 - 図書館での業務を体験することによる、積極的学習意欲の喚起、高い職業意識の育成
 - 利用者としてサポートを受ける側から他者をサポートする側になることによるキャリア形成

□ 制度

- 学内インターンシップ
 - 本学の学部学生を半期ごとに公募
 - 期ごとにレポート提出→参加証明書を授与
 - 業務の責任感+エンカレッジ→奨励金(500円/h)
 - 発足 2007年11月～276名(のべ681名)参加
 - 第19期 49名(継続42名、新規7名)

3

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

LiSA

自主性を尊重するプログラム

4月、10月に応募(初めての期では面談をおこなう)

↓

顔合わせ:
自己紹介や
自主企画紹介

キックオフミーティング

↓

学生自ら、期間中に40時間程度の
業務計画を立てる

職員は学生からの申請に基づいて
仕事を準備

学生自らの申請により
業務時間が決まる

月はじめに業務計画表を提出(月ごと)

↓

申告した時間に業務

日常的な交流

↓

期間終了後に実施報告書を提出

学生から意見や感想、
提案を聞く機会

振り返りの
機会

↓

学長・図書館長連名による修了証を授与

LiSAからの提案により、
期末MGも

4

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

LiSA

LiSA (Library Student Assistant)

□ 活動内容

- 通常業務
 - 図書装備（カバー掛け、ラベル貼り）、書架整理、図書修理、除籍作業、古典籍電子化の前後のチェック作業
 - 日常的な業務は職員がその都度説明、集中して作業
 - 図書の修理：職員や先輩LiSAの自主企画による修理講習会を行うことも
 - 古典籍：古典籍の基礎知識や取扱いの講習会を実施
- 自主企画
 - プチ司書講習会、新入生図書館ツアー
 - NDL就職説明会／OGとの懇談会
 - 企画展示、選書ツアー、POP書き、Twitterによる広報など
 - LiSAの発案や職員からの提案による。チームでの活動
 - 業務報告書で提案した図書館改善策などを企画・実現

5

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

LiSA

LiSAの活動例(通常業務)

図書装備



書架整理



図書修理



6

LiSA

LiSAの活動例(自主企画)

国会図書館就職説明会



企画展示



自主企画 ミーティング



新入生図書館ツアー



7

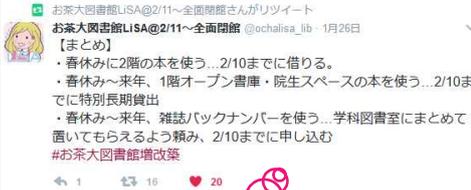
LiSA

学生目線の広報の効果

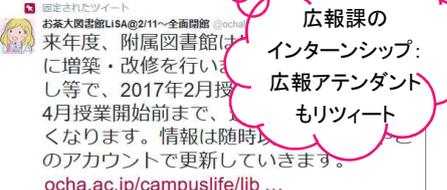
□ 図書館増築・改修関連アナウンス

- お茶大図書館の増築・改修特設ページの情報をLiSA (Library Student Assistant) の学生がツイート→リツイート

大学の公式
Facebook
Twitterでも

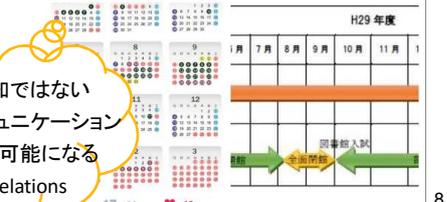


広報課の
インターンシップ:
広報アテンダント
もリツイート



使い手であり担い手でもある
自分ごととしてこれだけは押さえて
おきたいという情報を
学生目線でコンパクトに発信

単なる通知ではない
双方向のコミュニケーション
があるから可能になる
Public Relations



8

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

LiSA

LiSAの活動の成果

□ LiSA業務報告書より

- LiSAとしての仕事が直接利用者に影響するということを実感し、改めて**真摯に作業することの大切さ**を学びました。
- 図書館というのは**多くの人に支えられて成立しているのだ**と改めて感じました。
- とても古い本が大切に保存されているのを知って、**時間を越えた知的交流の場としての図書館の意味が少し分かった**気がします。
- 普段はなかなか係わる機会の少ない**専門以外の分野の本にも興味を持ち、実際に読む**こともでき、収穫の多い業務であると感じました。
- **自主企画でリーダー役を務め、責任感や先を見通して計画を立てること**など、普段の業務とは違ったとても貴重な経験ができました。
- **社会に非常に近いところで自主的に考え、動き、実現する流れを経験**できるのは、LiSAならではの経験だと思います。

9

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

LALA

LALA (Library Academic Learning Adviser)

□ 目的

- **共に学び共に成長するピアサポーターとして、大学での学びをより豊かにする**
 - 自らの経験やトレーニング・プログラムで得たアカデミック・スキルズ(レポート/論文の書き方、研究計画書の書き方、文献検索や入手の仕方、ICTスキルなど)を駆使して大学での学びをサポートする
 - **自主性を尊重しつつ「教える」経験を通じたキャリア形成**

□ 制度

- TA(ティーチングアシスタント)に準ずる形式
 - 大学院生を1年単位で雇用、時給1,200円～1,300円
 - 発足 2014年4月～ 第3期目11名(以前はICTサポーター)
 - 様々な専門分野・経験を持つ大学院生が集まっている

10

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

LALA

LALA (Library Academic Learning Adviser)

□ 活動内容

- 通常業務 (LALAデスク)
 - コアタイム (9:00~18:00) 3時間ずつのローテーションで図書館ラーニング commons の一角 (LALAデスク) で勤務
 - 業務記録は、授業でも活用されている Moodle (コンテンツマネジメントシステム) で共有。Excel でカテゴリー別に記録。
 - 2015-2016年質問数: 3777件/年 (学習関連: 88件→133件)
- 定例ミーティングと自主企画
 - 月1回のランチミーティングで、顔を合わせて情報共有
 - 相談記録シートのひな型を作成・共有
 - 全学の学生サービスの窓口について一覧表を作成
 - LALA文庫の創設: 学びに関する本をまとめて設置。利用記録: レポートの書き方など学びに関する入門書: 6割→需要喚起
 - ブログ開設に向けて準備中 (よくある質問をアーカイブ化)

11

LALA

LALAの活動例(通常業務)

窓口業務の様子(教員向けサービスパンフレットより)



ラーニング・commons の一角にあります

LALAデスク 相談風景

授業外の学習時間がさらに充実!

文献の探し方、レポート作成など

ぜひ、学生に利用をおすすめください!

LALAの役割は?

- 学生が自ら考え自ら調べることを支援します。
- より専門的な内容の相談については、教員や他の窓口へと適切にナビゲートし、学生と教員の橋渡しをします。



教員

図書館

LALA

学生

12

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

LALA

LALAの活動例(自主企画)

□ LALA Tips(仮称)による情報発信

図書館増築・改修をきっかけに。生きているサイト・顔が見えるものを作りたい！



さまざまな専門分野、出身
(内部進学／外部からの進学
／留学生)ならではの
職員だけでは気づけない
多様な視点から検討

- ツールは何を使うか
 - ・ HP／ブログ／メルマガ／メルマガ
 - ・ ドメイン(サイトの信頼性)
- 内容はどうか
 - ・ 学習相談／ICT関連
 - ・ 期間限定で増える質問も多い
 - ・ 知りたいこと／困っていることを記録からピックアップ→文章や動画で分かりやすく
- どのように見せるか
 - ・ カテゴリー分け、タグ付け
 - ・ アーカイブとして使えるか
 - ・ 発見はしやすいか
- 広報
 - ・ 利用してもらえる工夫
 - ・ PCにQRコードを貼り付ける
 - ・ 新入生オリエンテーションで紹介..etc.

13

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学生協働をめぐる動向

□ 学生協働ワークショップin東京

- 開催のきっかけ: 中国四国地区のシンポジウムに参加
 - ・ 参加したLISAの「東京でもできたらいいな」の一言から始まった
- 東京女子大＋早稲田大＋お茶大で試行的に実施→立教大
 - ・ 第1回: お茶大(2014年) 60名参加、8大学から10の活動を発表
 - ・ 第2回: 早稲田大(2015年) 90名参加、15大学から17の活動を発表
 - ・ 第3回: 立教大(2016年) 89名参加、13大学から15の活動を発表
- イベントの構成
 - ・ 学生からの口頭発表／ポスター発表／ワークショップ
- 運営上の課題
 - ・ 運営母体がない(東京～首都圏全域をカバーする図書館協議会などがない／コストは会場校負担／ボランティアベース)

※)学生協働ワークショップin東京
2015@早稲田大 <http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/gakuseikyodo2015.html>
2016@立教大 <http://library.rikkyo.ac.jp/gakuseikyodo2016.html>

14

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学生協働イベントの効果

- 共通の課題への気づき
 - 課題に対する新たな解決策への気づき、モチベーションアップに絶大な効果
 - 気になる大学を訪問して更に深化
 - 例: LiSAによる千葉大ALSA-GSの訪問と意見交換会／他の大学とも相互受入
 - 例: LALAによる筑波大のセミナー参加とLA訪問
- 自分の活動の特色を知る
 - 制度面・活動内容面の見直しのきっかけ
 - 例: LiSAがインターンシップであることの意味→さらなる責任感の向上
 - 例: LALAのランチミーティングやLALA文庫の設置→主体性・積極性向上
- 学生にとって／職員にとって
 - 興味関心は、共通する部分と立場によって違う部分がある
 - 学生: ワークショップ／職員: 意見交換会 それぞれの場を設定する等の工夫も必要?
- 多様な活動を知ること、自らを客観視することによる活動のさらなる活性化
 - 個々の活動はもちろん、全体の活性化・大学の活性化にもつながる

15

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

大学の中での位置づけ

- キャリア教育の現場になる
インターンシップ(就業体験)、ティーチングアシスタント(教育経験)
- ブランドになる

お茶大には司書課程は無いが、LiSA OGが図書館関係に就職する事例も増えている

高校の先輩がLiSAお茶大に入ったらLiSAになりたい

LiSAは図書館だけではなく大学のブランドへLALAは中期目標・中期計画に明記

インターンシップ体験

課外活動

経験すること、出会うこと
チャレンジの一つひとつが
夢を実現へ近づける糧となる

16

※)『お茶の水女子大学案内2015』 http://www.ocha.ac.jp/plaza/press/ochadai_guide_2015.pdf

未来は利用者と共に創る

□ 学生協働がなければ気付けなかったこと

- ○○さんって、普段どんな学生生活をしているんだろう？漠然とした、概念としての「利用者」「学生」「大学院生」ではない**イキイキとした個性の集まり**として利用者を捉えることができる
- 身近な社会人として「社会人基礎力」を発揮したいという**良い意味での緊張感**が持てる
- 業務を教えること＝知識・**スキルの定着・継承**につながる
- 短い期間で入れ替わっていく学生さん達に、より良いサービスを届けたいという思いで、常に**改善**をし続け、**垣根を越えた活動**ができる
- **変化に対する前向きさが未来につながる**

□ 共に学び・共に成長する気持ちを忘れない

- 大学で働くからには教育者の一端という自覚を持ちたい
- 主体的に／生涯学び続けるのは、私たちも同じ

17

その先の未来への拡がり求めて

図書館総合展で取り上げていただくことの意義



※) LISAとLALAのイラスト

「大学図書館における学生協働：LISAとLALAの取組」学生協働ワークショップin東京2016 発表資料 <http://hdl.handle.net/10083/60726>

18